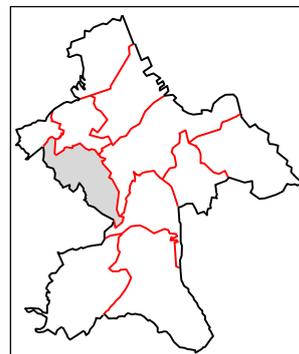


## 5. 館地区

### (1) 関係集落名

八幡、坂牛、通清水、一日市、鳥沢  
鷹ノ巣、高岩



### (2) 農業構造

#### ①農家

##### 農家数の推移

(単位：戸)

区分	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成 22 年	304	165	139
平成 27 年	258	129	129
令和 2 年	216	106	110

※1 販売農家：経営耕地面積が 30a 以上又は調査期日前 1 年間における農産物販売金額が 50 万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満で、かつ、調査期日前 1 年間における農産物販売金額が 50 万円未満の農家。

◇農林業センサスより

#### ②耕地面積

##### 耕地面積の推移

(単位：ha)

区分	総面積	田	畑
平成 22 年	352	157	195
平成 27 年	321	141	180
令和 2 年	315	138	177

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

### ③農業経営体

#### (a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

区分	経営体数	1 ha未満	1 ha以上 2 ha未満	2 ha以上 3 ha未満	3 ha以上 5 ha未満	5 ha以上
平成22年	169	102	34	23	5	5
平成27年	130	75	39	10	3	3
令和2年	108	69	23	8	4	4

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

#### (b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

区分	販売のあった経営体数	単一経営						複合経営
		稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他	
平成22年	149	55	3	18	1	3	2	67
平成27年	110	36	3	30	1	3	1	36
令和2年	92	30	4	23	1	5	-	29

◇農林業センサスより

#### (c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

区分	販売のあった経営体数	50万円未満	50万円以上 300万円未満	300万円以上 500万円未満	500万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上
平成22年	149	71	63	4	7	4
平成27年	110	56	38	6	4	6
令和2年	92	32	43	6	3	8

◇農林業センサスより

**(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移** (単位：経営体数)

区分	販売のあった経営体数	農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者
平成 22 年	149	59	13	46	15
平成 27 年	110	39	17	37	8
令和 2 年	92	28	13	32	10

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
-	12	4
2	4	3
1	4	4

◇農林業センサスより

**(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移** (単位：経営体数、ha)

区分	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	27	27	24	25	9	2
平成 27 年	25	30	22	28	7	2
令和 2 年	18	51	14	46	8	5

◇農林業センサスより

**(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移** (単位：経営体数 ha)

区分	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	31	12	16	5	19	7
平成 27 年	25	13	12	5	17	8
令和 2 年	17	10	11	6	8	4

◇農林業センサスより

**(3) 立地条件及び農業生産の特色**

市の南西部に位置し、耕地面積の割合は田 4 割、畑 6 割となっています。

りんごの栽培が盛んであり、生産団地を形成している他、ミニトマトの施設野菜栽培も行われています。

東北新幹線や東北縦貫自動車道の北方延伸等により、都市的土地利用が増加しています。

#### **(4) 主に生産されている農産物**

水稻、ミニトマト、スナップエンドウ、りんご、もも

#### **(5) 振興方向**

水稻については、基幹作物として、国の制度を利用しながら飼料用及び主食用の生産を継続するとともに、現在、生産団地が形成されている施設ミニトマトの生産量の拡大を図ります。

りんごについては、紋羽病対策として、もも等への改植を促進し、複合的な果樹生産体制の確立を図ります。

また、施設スナップエンドウの促成栽培に取り組むとともに、引き続き露地ねぎ栽培に取り組むことにより経営の充実を図ります。

#### **(6) 振興する農産物**

水稻、ミニトマト、スナップエンドウ、ねぎ、りんご、もも